

製品名: リン酸化 ErbB2 (Y1139) (12W6) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe05898**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IP 1:20-1:50
分子量	138kDa

抗原情報

遺伝子名	ERBB2
別名	CD340; CerbB2; ERBB2; HER2; Herstatin; MLN19; NEU; NGL; p185erbB2; TKR1;
遺伝子 ID	2064.0
SwissProt ID	P04626
免疫原	ヒト ErbB 2 の Tyr1139 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

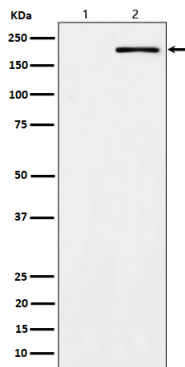
背景

いくつかの細胞表面受容体複合体の一部であるタンパク質チロシンキナーゼですが、リガンド結合には共受容体が必要であるようです。いくつかの細胞表面受容体複合体の一部であるタンパク質チロシンキナーゼですが、リガンド結合には共受容体が必要であるようです。ニューレグリン受容体複合体の必須成分ですが、ニューレグリンは単独では相互作用しません。GP30はこの受容体の潜在的なリガンドです。末梢微小管 (MT) の伸長と安定化を制御します。ERBB2が活性化されると、MEMO1-RHOA-DIAPH1 シグナル伝達経路が細胞膜での GSK3B のリン酸化を誘導し、阻害します。これにより、APC と CLASP2 のリン酸化が抑制され、細胞膜への結合が可能になります。次に、膜結合型 APC は、微小管の捕捉と安定化に必要な MACF1 の細胞膜への局在を可能にします。

研究分野

癌

画像データ



(1) A431 細胞溶解物、(2) EGF 処理した A431 細胞溶解物における Phospho-ErbB2 (Y1139)発現のウエスタンブロット解析。